

## 留学体験レポート

水信里穂

日中間では、言語に始まり習慣、風俗など多方面において様々な違いがあると思う。中国留学に行く以前から、多方面で文化の違いがあることは知っていたが、実際に目にして触れてみるとその違いはより大きなものと感じ、より多くの違いに気づいた。

交通ルール、マナーに関してもそのうちのひとつであり、最も印象に残った内容である。北京市内でバス、タクシーを利用した際に、日中間の交通マナーに関する違いを目の当たりにした。日本でタクシーを利用した際、運転手と乗客の関係ははっきりとしている。お客様に対して、サービスを行う側がそれを提供するという形であり、これはタクシー業界だけに限らず、あらゆる職種でのサービスに関係しているであろう。日本では多くは、車のドアは自動で開き、やさしくゆっくりと閉まる。荷物は運転手が丁寧に運んでくれる。これらは日本ではごくごく頻繁に見かける光景であるが、中国では違っていた。

交通マナーや常識の違いからであると予想する。中国では赤信号でも車道に進む歩行者は珍しくないし、またタクシーに乗車中には車間距離が異常といえるほど近いという印象も受けた。中国のサービス業はほかの分野と比べ特に劣っていると感じた。これらの事実は北京に留学し生活する前から、ネットやニュースなどの情報で知っていた。これらの情報のみだと、中国は交通マナーが悪く、サービス業の発展もまだまだという印象を受ける。しかし、実際に北京にて自ら生活してみると、これら以外の別の事実にも気づくことができた。

まず交通マナーに関してだが、私が北京でよく目にし、日々驚いていた光景は中国ではごくごく普通の光景であるといことだ。やはり中国と日本では交通マナーやあらゆるものの考え方自体が、当たり前ではあるが全く違ったのである。自分自身の常識をあらゆることすべてに対しての物差しとして使うことはできないと知った。確かに日本人からしたら、常識はずれだと思ふような言動も、それまで生きてきた環境が違うのであれば異なっても当然だと思った。サービス業に対しても、これは言える。良いサービスの認識が違ふし、そもそも人対人の思いやり、感謝、詫びの仕方も違ふ。

わたしが日本で思っていた常識や、あらゆることへの認識の仕方は当たり前であるが全てではなく、どれが正しいどれが間違っているということはなかった。広い視野で柔軟に、物事を自ら体験することによって、中国と日本の様々な違いに気づいた。公共交通機関、飲食店など、普段の生活で気づいた日中間のあらゆる文化の違いの根本には、やはり常識の違いがあると思った。